Science Mentor
The Japan Science Society

Science Mentor News

Vol.4, No.2,
Feb, 2018
(Total No.38)

目次

Ⅰ．「私の学校自慢」の紹介⑪→ 9 ページ
「私の学校自慢」の紹介⑫→ 10 ページ
「私の学校自慢」の紹介⑬→ 11～12 ページ
「私の学校自慢」の紹介⑭→ 13 ページ
「私の学校自慢」の紹介⑮→ 14 ページ
Ⅱ．サイエンスメンター事業について③→ 15 ページ

Ⅰ．「私の学校自慢」の紹介⑪

今年に入り、気づけば２月も終わろうとしています。前号から引き続き、来月のサイエンスメンターワークショップ開催までに、皆さんの学校自慢を紹介していきます。

「わたしの学校自慢」

愛媛大学附属高等学校１年　関 翔

僕の学校は、もともと 10 年前までは愛媛大学農学部附属農業高等学校という農業学校でした。その学校の跡が今でも残っています。たとえば、1 年生では『地域の産業』という、草花、野菜、果樹、作物畜産という 4 つのグループに分かれて行う授業があります。たとえば作物畜産であれば、田植えの準備やヒツジの世話、もちつきなど作物や畜産に関する様々な実習を行います。2 年時、3 年時でも農業の授業を選択でき、農業についても深く学べる学校です。

学校行事の中には、様々な農業に関する行事があります。1 年生は田植えや、稲刈りなどの実習があります。2、3 年生でも『どろりんぴっく』という、田植え前に田んぼの中でドッヂボールや、鬼ごっこを行い、しろかきの代わりにしています。12 月になると、収穫したコメで作ったもちを撒く、もちまきもあります。

元は農業学校という特徴を生かし、部活動の中には『農業クラブ』というものがあります。授業外で農業にかかわることができ、様々な技術を身につけている人も数多くいます。例えば農業コンテストで優秀賞や最優秀賞を取っている人もいます。

また、学校の規模の小ささも特徴の 1 つです。1 学年が約 120 人で、全校では約 360 人という、周りを見てもとても小さな学校です。しかし、この学校の良さの 1 つに、この規模が小さいというものがあります。これにより、1 年生でも 2 年生、さらには 3 年生とも簡単につながることができ、結束力が強いという特徴があります。

【関 翔さんの紹介】
研究テーマ：災害時の発電のための燃料電池の開発
メンター：愛媛大学大学院理工学研究科　物質生命工学専攻准教授　板垣吉晃先生
担当教諭：松本浩司先生



関 翔さん

「私の学校自慢」の紹介⑫

「高専祭」

国立鈴鹿工業高等専門学校４年　大久保 和樹

僕が在籍している高等専門学校はどこまで知名度があるのかわからないので一応説明すると、高校１年年代から大学２年年代までが在籍しています(年齢だと 16～20 歳)。そのため、学校の行事も高校の行事と大学の行事の中間的な雰囲気のものが多いです。また、学年によって色々と特徴的な行事はありますが、5 年間を通しての大きなイベントといえば高専祭です。毎年 10 月の終わりに行われます。鈴鹿高専では高専祭で各部活・クラスが出す模擬店、鈴鹿高専にある５学科の特色を外部の人に実際に感じてもらうブース、ステージ上での色々な企画などが２日間かけて行われるのですが、特に印象的なのは以下の 3 つかなと思います。

①水泳部によるウォーターボーイズ

これは毎年、整理券をもらう列ができるほど有名です。鈴鹿高専の水泳部は昔、フジテレビ主催の「全国高校ウォーターボーイズ選手権」で二年連続優勝したり、今年の「ミュージックステーション」で「欅坂４６」の歌に合わせてシンクロをしたりして地上波に登場しています。僕もみたことがありますが、本当にすごいです。ネットで「鈴鹿高専・ウォーターボーイズ」と検索してみてください。何個も動画が出てくるはずです。↗





↘②中夜祭

　これは学生しか参加できないので、あまり知名度はないかもしれませんが、毎年とても盛り上がります。工業高等専門学校のため、男子の比率が多く、非常にノリのいい生徒が多いです。そのため、中夜祭は有志でダンスやお笑いをする人がいたり、歌う人がいたりします。また、ミス・ミスター高専もこの時に決めるので、本当に盛りだくさんなのが中夜祭だったりします。

③メモリーズ

　これは毎年 5 年生が各クラスでさらに何グループかに分かれてダンスを踊る行事で、高専祭の大トリです。名前通り、高専での最高の思い出になるためのイベントで先輩みんなが楽しそうに踊っているのが印象的です。

【大久保 和樹さんの紹介】

研究テーマ：量子力学に関する知見を深める

メンター：元東京大学　波田野彰先生

担当教諭：仲本朝基先生



大久保 和樹さん

「私の学校自慢」の紹介⑬

「わたしの学校自慢」

愛媛県立長浜高等学校２年　重松 楽々

私の通う高校は、海、山、川に囲まれた小さな町にあります。もちろん大型のショッピングモールやカフェ、ゲームセンターなどはなく、あるのは小さなスーパーや駄菓子屋などです。高校生になるとき思い描いた、都会の学生たちのような放課後の時間は実現しませんでした…。それでも、私たちの高校には溢れるほどの魅力があります。

一番の魅力は、高校に水族館があることです。水族館部の生徒が維持・管理を行い、毎月第三土曜日には一般の人に向けて水族館公開も行っています。教室内いっぱいに並ぶたくさんの水槽では、合わせて一五〇種、二〇〇〇匹の生き物を展示しており、毎月五百人以上もの来館者が訪れます。

水族館部の活動は、テレビや新聞などでも大きく注目されています。今年の夏、ＡＮＡ松山空港とのコラボ活動として空港水族館を行い、ニュースなどで大きく報道されました。

水族館部の活動は生き物の飼育・展示だけではなく、研究活動にも盛んに取り組んでいます。過去の先輩方は、ファインディング・ニモで話題となったカクレクマノミが、なぜイソギンチャクに刺されないのかを研究し、世界大会で四等賞を受賞しました。

また、今年に入って水族館部が舞台となった漫画の連載も開始しました。普段の活動や町全体の雰囲気などかそのまま漫画化され、どんどん水族館部の活動が広まっています。

私たちは、町の自然の豊かさを生かし、都会では味わえないような豊かで魅力的な高校生活を送っています。体育の授業では、学校のすぐ裏の海で釣りをしたり、泳いだりカヌーを漕いだりします。部活の歓迎会やお別れ会では、海でバーベキューをします。夏は夕日がとてもとても綺麗で、生徒たちはは放課後海で夕日を見ながら思い思いに過ごします。私たちの高校は、町は、小さいけれど溢れるほどたくさんの魅力を持った、私の自慢の場所です。

【重松 楽々さんの紹介】

研究テーマ：カクレクマノミ体表粘液中のマグネシウムイオンは、どのように高濃度な状態で保たれているのか

メンター：愛媛大学理学部　生物学科准教授　高田裕美先生

担当教諭：内山太先生



重松 楽々さん

「私の学校自慢」の紹介⑭

「わたしの学校自慢」

東京都立戸山高等学校１年　白土 きくの

戸山高校は様々な事に力を入れている学校です。行事や部活動などに力を入れている生徒が多いです。自主自立という校風の下、生徒たちが自ら考え色々な行事を運営しています。自由な校風も戸山高校の特徴の一つで、校則はほとんどありません。制服がないので、みんな好きな洋服を着ています。女子はなんちゃって制服、男子は私服や部活着の人が多いように感じられます。

校舎はきれいな方だと思います。今年で創立 130 周年ですが、平成 16 年に新校舎に建て替えられています。私が学校の中で好きな場所は、階段広場とビオトープです。階段広場は二階の渡り廊下と三階の西階段から出入りでき、天井のない吹き抜けとなっています。暖かいときには昼休みにここでお弁当を食べる人もいます。ビオトープにはヒキガエルとヒキガエルを養えるだけの豊かな自然があります。実験に協力してもらっているカエルもここで捕まえました。生物室には東京都で絶滅危惧種に指定されているヤマアカガエルもいます。

戸山生のお昼の楽しみの一つに購買パンがあります。良心的な価格でどのパンもとても美味しいので、購買は昼休み前からパンを求める人でにぎわっています。ちなみに私のおすすめはメロンパンです。

戸山高校には各学年に二クラスずつ SSH クラスが設置されています。専攻している分野は違っても、同じクラスで分け隔てなく生活しています。好きなこと、興味のあることがそれぞれあるけれど、お互いの考えを自然に尊重出来ているところはこのクラスの美点だと思います。また、SSH クラスだと男女比が２対１と女子が少なめですが、男女間の中が良いので困ることはありません。

戸山高校は先生も生徒も個性豊かな人が多い、良い学校です。



白土 きくのさん

【白土 きくのさんの紹介】

研究テーマ：アズマヒキガエルの分泌物から作る蟾酥の危険性について

メンター：麻布大学獣医学部生理学第１研究室講師　松井久実先生

担当教諭：坂庭愛子先生

Ⅱ. サイエンスメンター事業について③

続きまして、お休みしておりました、サイエンスメンター事業の中で皆さんに知ってほしいことシリーズをお届けいたします。今号では「サイエンスメンターワークショップ」についてです。

以前より、本事業を利用したメンティたちからもっと早く他のメンティと交流したいという要望がありましたが、現在の高校生は学校生活だけでもとても忙しく、昨年度まで中間時期などに皆さんが集まってもらえる時期の調整ができませんでした。

それが今年度から 9 月に利用開始することで、中間期の 3 月にメンティの皆さんが集まれるかもしれないと、合宿形式で後半の研究に生かせる知識も勉強してもらえたら良いなと企画しました。

そしてメンティＯＢ・ＯＧたちがこのワークショップに協力してくれることになりました。

元々、メンティのＯＢ・ＯＧには本事業に何らかの形で参加してもらいたいと思っておりましたが、昨年度は研究発表会の冒頭でスピーチしてもらい、今年度はワークショップにも協力してもらえることが実現して、担当者としてはうれしい限りです。

このワークショップではロボットコミュニケーターの吉藤健太朗氏の講演をはじめ、メンティの皆さんにはグループで作業したり、統計の実習をしたりということを考えておりますので楽しみにしていてください。

また風邪などひかず全員が元気に参加してもらえますようにと思っております。

～事務局　加瀬より～

今年の冬は本当に寒さが身に沁みますが、昨日に近所の梅が咲き始めているのを見つけました。春はそこまで来ているのでしょう。メンティ・先生・メンターのどなたでも、ニュースやニュースレターに関して、ご希望があれば遠慮なく事務局にご連絡下さい。また、こんな情報を載せたい・知りたいという要望も大歓迎です。

発行元： 公益財団法人 日本科学協会　企画室
サイエンスメンターニュース　第４巻　第２号（通巻３８号）
発行日：2018 年 2 月 26 日
〒107-0052　東京都港区赤坂 1-2-2　日本財団ビル 5F　TEL:03-6229-5360　FAX:03-6229-5369
URL: http://www.jss.or.jp/ikusei/mentor/
E-mail:kikaku@jss.or.jp